# 災いの徒党

# 災いの徒党

聖ヴェロスとチャイマーに従って約束の地モロウウィンドへと向かった祖先の霊のうち、デイドラの主である4人、マラキャス、メエルーンズ・デイゴン、モラグ・バル、シェオゴラスは、災いの徒党の四柱として知られている。彼らデイドラの主は、トリビュナルの助言と勧告に反発し、氏族と大家に大いなる騒動と混乱をもたらした。

マラキャス、メエルーンズ・デイゴン、モラグ・バル、シェオゴラスは、試練の時に障害物の役割を果たすという意味において聖人である。時に彼らは、この地域の敵であるノルド、アカヴィリ、あるいは山のオークとさえ交流を持った。

マラキャスはかつてトリニマックだった者の残骸であり、弱いが復讐心に燃えた神である。ダークエルフは彼がオークの神王マラックだと言う。彼はダンマーの身体的な弱さを試す。

モラグ・バルは、モロウウィンドにおける略奪王である。彼は大家の血統を壊そうと試みており、さもなければダンマーの遺伝子プールを汚すつもりでいる。モラグ・アムールに住んでいたと言われる怪物の種族は、前紀に行われたヴィベクの誘惑の結果である。

シェオゴラスは狂気の王である。彼は常にダンマーの精神的な弱さを試す。多くの伝説において彼は、ダンマーのある派閥に対抗しようとする派閥に招かれている。物語のうち半数において、彼は自分を呼んだ者たちを裏切らず、そのため、全体的な枠組みにおける彼の立場について混乱が生じている(果たして彼は我々を助けられるのか？ 障害にはならないのか?)。彼は、例えば帝国のように、ダンマーが恐怖を抱く他の種族と、役に立つ同盟者として結びつくことがある。

メエルーンズ・デイゴンは破壊神だ。火事、地震、洪水など、自然の危険と関わりを持つ。ある者たちにとって、彼はモロウウィンドの住みにくい土地の象徴である。耐えて生き延びる意志がダンマーにあるかどうかを試す。

これら四柱の邪悪な崇拝は、聖堂の掟と慣習に反することである。しかし、四柱に仕えようとするどん欲で無謀な者や、正気を失った者が絶えた試しはない。古代の聖堂の掟と秩序、そして帝国の法に基づいて、こうした魔女やウォーロックたちは処刑される。帝国の駐留部隊は聖堂のオーディネーターやボイアント・アーミガーと協力して、荒野の隠れ家や古代の遺跡に隠れて冒とく的な崇拝を行う者たちを追い詰め、始末している。

# 災いの徒党

| | |
|---|---|
| **FormId** | dragonborn.esm:028268 |
| **Owning plugin** | dragonborn.esm |
| **Local FormId** | 028268 |
| **Editor ID** | DLC2Book2CommonHouseofTroubles |
| **Inventory image** | (none) |
| **Menu art** | HighPolyBasicBook06a |
| **Value (gold)** | 7 |
| **Type** | Book or tome |
| **Weight** | 1 |
| **Can be taken** | Yes |
| **Teaches** | (none) |
| **Inventory description** | (none) |
| **Keywords** | VendorItemBook |
| **Locations** | 69 |
| **Leveled lists** | 5 |
| **Scripts** | 0 |

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.